

第31回 10月開催セミナー
スクールソーシャルワーク評価支援研究所

いじめ、不登校、児童虐待、少年事件と子どもをめぐる課題が注目されています。社会的ニーズに対応する方策の1つとして、スクールソーシャルワーカーが社会に認知され機能していくことが求められています。しかし、そのSSW実践はまだ明確ではなく全国的にも不統一です。この課題に対応すべく、私達はSSW事業モデルを開発してきました。これを、教育機関も含めて全国各地にウェブを活用した普及を実施し、プログラム評価を行い、形成評価、改善を繰り返すことを目的としています。さらには、それを客員研究員である国や有識者（ゲストも含む）において、レビューしていくことで、制度構築や社会的発信につなぎます。またソーシャルワークや他領域の評価研究の支援も行っています。

第32回 11月開催セミナー
バイオメディカルファシリティセンター

バイオメディカルファシリティセンター（BMFC）は高度な医薬品開発に求められる前臨床試験に関わる様々な課題を解決することを目指し、その基盤技術の開発と学内外の医薬品や健康食品などの開発を支援することを目的に設立しました。泉佐野市のりんくろキャンパスにある獣医学専攻を中心に生命科学から工学までの様々な分野の研究者が集まり、細胞や動物を使用する実験を洗練させるための研究や技術開発に従事しています。もちろん、獣医学専攻を基盤として設立した研究所ですから、研究成果の獣医医療への応用も主たる目的の一つです。近い将来にBMFCが関わる医薬品や健康食品が上梓される日が来ることを期待しています。

第33回 12月開催セミナー
最先端船舶技術開発研究所

最先端船舶技術開発研究所は、造船、海運、港湾等の民間海事産業の振興を、学術的・技術的な側面から支援するために、2014年12月に設立されました。所長には、工学研究科海洋システム工学分野の深沢教授、コーディネータに21世紀科学研究機構の池田特認教授が就任しています。現在、9つの共同研究テーマを掲げて、民間企業との共同研究の形で次世代船舶に必要な技術の研究開発を行っています。

Research Organization for the 21st Century
21世紀科学研究機構

I-siteなんば

- 会場 大阪府立大学 I-siteなんば
- 住所 大阪市浪速区敷津東2-1-4 1
 南海なんば第1ビル 2F

(Zeppなんば大阪の東隣のビル北側の府大専用エントランスからお入りください)



- ・南海電鉄「なんば(南出口/なんばパークス方面)」駅下車
 南へ約800m (徒歩約12分)
- ・地下鉄御堂筋線「なんば(5号出口)」駅下車
 南へ約1000m (徒歩約15分)
- ・地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町(1号出口)」駅下車
 東へ約450m (徒歩約7分)
- ・地下鉄堺筋線「恵美須町(1-B出口)」駅下車
 西へ約450m (徒歩約7分)
- ・南海電鉄高野線「今宮戎」駅下車
 北へ約420m (徒歩約6分)

※当施設には駐車場がございませんので公共交通機関をご利用ください

第34回セミナー
 2016年1月7日(木) 15:00~16:30 開催予定
 研究所：日本語教育研究所



大阪府立大学 21世紀科学研究機構
21世紀科学研究所連続セミナー

2015年
 10月~12月



大阪府立大学の「21世紀科学研究所」は、教育・研究活動の一層の活性化を図ることを目的に、バーチャル研究所として平成18年2月1日に創設しました。以来、教員が学域（学部）・研究科の枠組みを越えた学際的あるいは分野横断型の先駆的で挑戦的な活動をし、現在では44の研究所を擁するまでに発展してきました。

当セミナーは、各研究所の研究成果をより多くの皆さまに向けて情報発信し、活動内容を知っていただくことを願うとともに、社会への貢献に資することを目的として開催しております。多岐にわたる21世紀科学研究所の研究内容の一端をご理解たまわれれば幸いです。

講座のお申し込みについて

- 予約制（参加費無料） どなたでもお申し込みいただけます。
- E-mailもしくはFAXで、
- ①氏名（ふりがな）・年齢
- ②郵便番号・住所
- ③電話番号
- ※FAXでお申し込みの場合FAX番号もご記入ください。
- ④参加希望の講座の開催月
- をご記入の上、下記へお申込みください。

FAX 072-254-8154
 E-mail 21c-headoffice@21c.osakafu-u.ac.jp

定員70名。
 定員になり次第締め切らせていただきます。

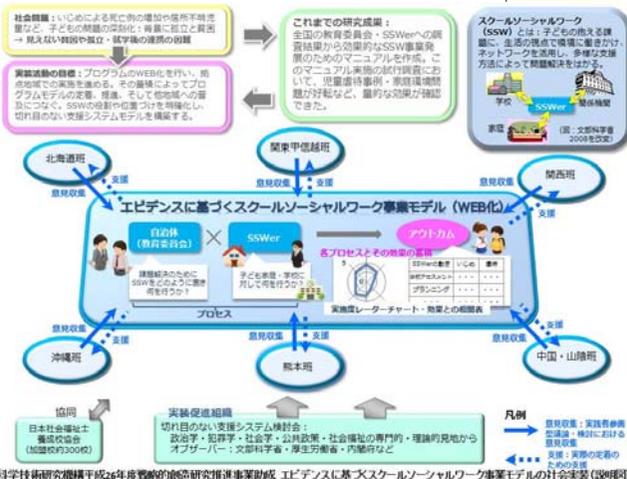
効果的なスクールソーシャルワークモデル開発 - 教育行政との協働の実際と意義 -

日時 2015年10月1日(木) 15:00~16:30
 受講料 無料
 講師 スクールソーシャルワーク評価支援研究所 所長
 人間社会学研究科/地域保健学域教育福祉学類 教授 山野 則子
 申込締切 2015年9月28日(月) ※定員になり次第締切

子ども子育てをめぐる現状は厳しい状況にあるといえますが、それを打開する策としてのスクールソーシャルワーク実践がどこまで可能なのか、実証研究として明らかに今までされてきませんでした。そういったスクールソーシャルワークを実践に基づく研究蓄積から可視化し、研究から見える可能性と意義を紹介し、まず2012年全米調査に並ぶ全日本調査をスクールソーシャルワークでは初めて実施し、その結果を示します。2010年から蓄積してきた研究成果に基づいて構築した効果モデルであるスクールソーシャルワーク事業プログラムを提示し、その試行調査結果を全国展開している実践現場の声とともにお届けし、課題を明らかにします。大阪府立大学の公開講座や今まで開催してきたシンポジウムなどでは、十分触れられなかった研究としての報告や議論をわかりやすい形で行いたいと思います。



＜講師略歴＞
 関西学院大学にて博士(人間福祉)学位取得、梅花女子大学助教授を経て、2007年より本学准教授、2010年より現職。2010年日本ソーシャルワーク学会学術奨励賞受賞、大阪府立大学学長賞受賞。内閣府子どもの貧困対策に関する検討会構成員、文部科学省中央教育審議会分科会委員、文部科学省家庭教育支援チームのあり方に関する検討委員会座長など要職を歴任。厚生労働省、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、そして堺市、茨木市などの行政等、複数機関から研究を受託。



＜研究紹介＞
 子ども家庭福祉が研究領域であり、特に、スクールソーシャルワークや市町村における子どもを支える仕組み作りです。いずれも子どもや保護者に身近なところで子どもの最善の利益の保障に役立てるソーシャルワークの構築と体制作りを目指しています。常に実証的研究でエビデンスに基づいて理論構築し、実践現場に生かすことを意図しています。

血液や尿から病気を見つける？

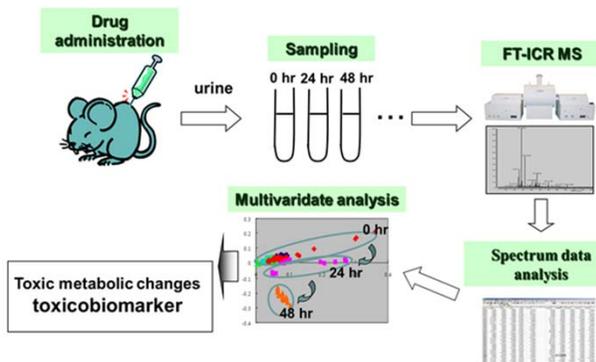
※11月は第2木曜日の開催です！ご注意ください
 日時 2015年11月12日(木) 15:00~16:30
 受講料 無料
 講師 バイオメディカルファシリティセンター 研究員
 生命環境科学研究科・准教授 竹中 重雄
 申込締切 2015年11月6日(金) ※定員になり次第締切

血液検査や尿検査は一般の病院でも行われるごく普通の臨床検査です。では、血液の中に化学物質(代謝物)はどの位あるのでしょうか？一説によると3,000種類くらいいだろうといわれています。近年では血液や細胞に含まれる全ての代謝物を一斉に測定するメタボロミクスという手法が目立っています。血液や尿中の代謝物の量的な変化は病院の検査と同じで生体反応の変化を表しますから、身体の状態を知るには最適の方法の一つです。私達は未来の検査で一滴の血液や尿からいろんな種類の病気がわかるようになることを目指して研究を進めています。今回は血液や尿に含まれる代謝物を調べること、医薬品開発の最大の課題である副作用の予測(薬物毒性の評価)を試みた例、そして本学の獣医臨床センターを含む動物病院に来院されたガンのイヌの血液からその再発診断を試みた例をご紹介します。



＜講師略歴＞
 平成7年3月 大阪府立大学大学院 農学研究科博士課程修了、同年4月 羽衣学園短期大学家政学科 講師、平成13年10月 大阪府立大学大学院 農学生命科学研究科獣医学専攻 助手、平成17年10月 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 助教授、平成19年4月 同准教授 現在に至る。獣生化学を担当中。

◇研究紹介◇
 動物は色々なものを食べて生きています。食べるものには生きるために必要なものが含まれているのです。何を食えばいいのか？食べたら身体でどうなるのか？そんな疑問に答えることが生化学です。私はビタミンの摂取とその身体への影響を調べて、健康を維持するために食べるべきものを、科学的証拠とともに示すことをテーマとしています。



省工ネ船の技術開発 -船が地球を救う-

日時 2015年12月3日(木) 15:00~16:30
 受講料 無料
 講師 最先端船舶技術開発研究所
 特認教授・名誉教授 池田 良穂
 申込締切 2015年11月27日(金) ※定員になり次第締切

日本の輸出入貨物の99.7%は船によって運ばれています。船は、トラックに比べると1/5以下、飛行機に比べると1/100以下のエネルギーで物が運べるたいへんエネルギー効率のよい輸送機関で、地球温暖化の要因の1つと考えられているCO2の排出量も非常に少なく、これからの時代にもなくてはならない輸送機関です。この船舶の省工ネ化は1970年代のオイルショック直後に積極的に進められ燃費が半減しましたが、さらに近年の油価格の高騰と環境問題から、さらなる省工ネ化のための技術開発が活発化しています。本講演では、21世紀研究機構の最先端船舶技術開発研究所が企業と共に取り組む船舶の省工ネ技術に関する研究についてご紹介します。



＜講師略歴＞
 1978年 大阪府立大学大学院博士後期課程単位修得退学・大阪府立大学工学部船舶工学科 助手以降、講師、助教授を経て、同大学大学院海洋システム工学分野 教授 2011~2015年 工学研究科長・工学部長 2015年 定年退職、名誉教授 以降、21世紀科学研究機構 特認教授として活動。



船の摩擦抵抗の大幅削減のための船底空気槽

◇研究紹介◇
 現在行っている研究としては、船舶の省工ネ技術として最後に残された課題である摩擦抵抗の大幅低減を空気槽を使って実現する方法の開発、船舶性能把握のために使われているCFD計算における乱流モデルの適合性の研究、ヒューマンエラーによる海難撲滅を目指した自動運航船舶の研究開発などがあります。いずれも民間企業との共同研究として実施しています。



『ノンバラスト&K0タンカー』のコンセプト図



『帆装トリマランPCC』のコンセプト図